



生涯学び続ける基盤づくり - 「次期」を見据えて -

◆ 次期学習指導要領の要諦の一つに、学習評価の改善があります。「学びに向かう力、人間性等」の個人内評価への変更です。

◆ 教育課程全体を通じた「個人内評価」に改める背景には、学校現場の「目指す資質・能力を反映した評価となりにくい」、「負担が重い」、「過度な評価の材料集めにつながっている」といった声があります。こうした指摘と併せて私が注目したのが、「論点整理」の参考資料です。



◆ パーソル総合研究所が2022年に行った「グローバル就業実態・成長意識調査」結果によれば、「社会人になってから自己研鑽・自己啓発を行わない人の割合」は、日本が52.6%で18か国中最も高く、次に高いオーストラリアの28.6%と比べても群を抜いています。

◆ 学習評価の主たるねらいは、学習者の学ぶ意欲を高めることと、学習改善の方向性に気付かせることにあると、私は捉えています。「主体的に学習に取り組む態度」の評価に「C」が付いた子供の学ぶ意欲は、逆に下がってしまうはずです。

◆ 次期学習指導要領では、多様な子供たちのよさや成長を適切に見取り、「学びに向かう力、人間性等」の評価を肯定的に伝えていくこととなります。目指すところは、「はむらの授業指針」の中央に掲げた「生涯学び続ける基盤づくり」です。

※ 「学びに向かう力、人間性等」に係る顕在化している課題…「源流」第272号・273号参照

※ 「主体的に学習に取り組む態度」評価の改善…「源流」第291号・292号参照

魅力ある人は内面が充実している

くんし さんへん あ
君子に三変有り。

これ のぞ げんぜん これ つ あたたか そ げん き はげ
之を望めば儼然たり。之に即けば温し。其の言を聴けば厲し。

(訳) 君子には、三つの変化がある。遠くから眺めると、きちんとしていて威厳がある。近付いてみると、温かさが感じられる。そして話してみると、言葉には自分に対する厳しさがある。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）